

技術を活かして被災地を支援 ～災害時支援ボランティアで使う道具（鋤簾）の開発～

熊本県立鹿本商工高等学校

本校では、2017年度より災害時支援ボランティア班を結成し、各種ボランティア活動に取り組んでいます。ボランティア班への参加は本人の意志で、保護者の同意のうえで加入しています。

2017年度は、7月5日に発生した九州北部豪雨災害の際に、現地に6回出かけ、生徒、職員、卒業生が泥出しボランティアに参加しました。使いやすい道具が無く苦労した経験やボランティア作業の中で見えてきた課題を踏まえ、屋内、床下での泥出しに利用する道具（鋤簾（じょれん））を開発しました。床下でも使いやすい柄の長さとする、柄の滑り止めに紐を付ける、刃の角度を柄に直角にする等の工夫をしました。製作に当たっては試行錯誤しながら、改良をおこないました。そして、朝倉市に完成した鋤簾110本を支援物資として送り、被災者やボランティアの方に使っていただきました。利用された方々からは、「これが欲しかった」「とても使い勝手がよい」と好評でした。その後、災害に備えて3月までに50本の鋤簾を備蓄しました。

2018年度は、7月6日に発生した西日本豪雨災害において、7月9日よりプッシュ型支援を開始し、岡山、広島、愛媛へ10月10日までに438本の鋤簾を送りました。製作は、機械科の生徒8人が中心となり、情報管理科及び商業科の女子生徒5人を含む7人も溶接を含めて作業に当たり、総勢15人の生徒がボランティア物資支援活動を行いました。NHKおはよう日本、熊本朝日放送、熊日新聞、朝日新聞、山陽新聞に取り上げられ、各地より鋤簾に対しての感謝の声をいただきました。現在は、2019年に災害が起きないことを願いつつ、3月までに100本の備蓄を目標に活動しています。

また、災害時支援ボランティア班は、鋤簾の製作ばかりでなく、益城町馬水仮設団地みんなの家での「みんなの家こども祭り」等の取組も行っています。



溶接の様子



柄の製作の様子



完成した鋤簾



製作に関わった機械科の生徒